日刊建設通信新聞（2016年3月31日付第2部5面掲載）

【＜提言10年後の建設生産システム＞オリエンタルコンサルタンツ三住泰之氏】

柔軟運用の仕組み必要

ＣＩＭの効用は、設計から維持管理に至る各ステップでのデータの共有による品質向上、生産性の向上である。2次元データを設計成果とするわれわれ設計者は、ＣＩＭの実用化に向けて、設計者自らの生産性向上も必須であり、ＣＩＭモデルが設計計算や数量計算、積算と連動可能となるシステムの開発や制度の改定を期待したい。また、構造が複雑になるとモデル化が困難となるため、目的に応じてモデル化の範囲を適宜、見直せ、柔軟に運用できる仕組みが必要と考える。ＣＩＭは品質向上、生産性向上に加え、後世に良いものを引き継ぐための新しいツールであるため、必要な情報と機能を第一に考えるとともに、設計技術の研鑽に供する姿勢を忘れてはならない。

三住 泰之氏
オリエンタルコンサルタンツ

（関西支店国土技術部担当次長）